

第3回茨城沿岸津波浸水想定検討委員会 主な意見と対応

日時：平成18年11月14日（火）

13：30～15：30

場所：水戸市国際交流センター 多目的ホール

番号	主な意見	対応
1	<p>○延宝地震の断層パラメータ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検証計算の結果は、全体的にあっている。 ・ 再現計算結果が痕跡より高めに出ているくらいが妥当である。 ・ 以上より、中央防災会議の検討モデルのすべり量を1.2倍したモデルを茨城県のモデルとして承認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会の決定にしたがって計算を進める。
2	<p>○地形モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海域構造物はブレイクラインで表現する。陸域の盛土などの線状構造物は、メッシュで表現可能なものは地形として取り扱い、地形のみでは効果を適切に算定できないものをブレイクラインで表現する。 ・ 陸域の建物などの影響は、それらを取り払った地形モデルに粗度を与えて表現する。 	
3	<p>○河川遡上計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二級河川についても流量を考慮しないで計算する方法で行う。 ・ 河道内に水がある場合は、ない場合より早く水位変動することを明示しておく。 ・ 河道内の津波到達時間は、開始時間の基準(地震発生後から)を明示しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会の決定にしたがって計算を進める。 ・ 報告書では、河川の計算結果を示す際には、河道内に水がある場合は、ない場合より早く水位変動することを、大北川の例をもって明示する。また、津波到達時間は、地震発生後からの時間であることを明示する。

4	<p>○津波被害想定手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 死者数の情報は、インパクトが強く他の情報が伝わらない可能性もあるので、注意して出すようにしてほしい。 ・ 災害弱者、避難路などの安全確保は市町村、町内会など地域レベルで考えてもらうべきである。 ・ 被害想定の結果は、約 500m メッシュで地図に落として表現する。 ・ 避難率については、事例を収集し、避難意識がさらに低い場合等の検討を加える。 ・ ライフライン支障は、影響を受ける割合を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 死者数は、どのように取り扱い、公表するかについては、茨城県として検討する。 ・ 本調査の成果を受け、市町村に、HM作成時などに避難経路、避難場所について、検討してもらうことになる。このとき、住民とともに災害弱者施設（病院、老人ホームなど）の表示方法について検討してもらうように、本調査の説明などの機会に働きかける。 ・ 避難率については、11/15 に発生した択捉島東北東沖の地震津波の際の避難率（避難率が低かったことが指摘されている）等、具体的な事例を収集し、避難意識の低い場合の率の設定について検討を加える。 ・ ライフラインへの影響は浸水施設の割合を示す。
---	--	--